

食と農への関心・関わり度についてのアンケート結果

本県では、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す「滋賀県農業・水産業基本計画」(計画期間:令和3年度～令和7年度)を策定し、基本理念「県民みんなで創る 滋賀の『食と農』を通じた『幸せ』」の実現に向けて施策を進めています。

このたび、計画の策定や推進に役立てるため、「食と農への関心・関わり度」についてアンケートを実施しました。

★調査時期：令和6年8月

★対象者：県政モニター299人

★回答数：239人(回収率79.9%)

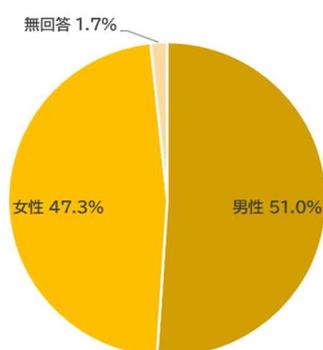
★担当課：農政水産部 農政課

※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。

【属性】

◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	122	51.0%
女性	113	47.3%
無回答	4	1.7%
合計	239	100.0%



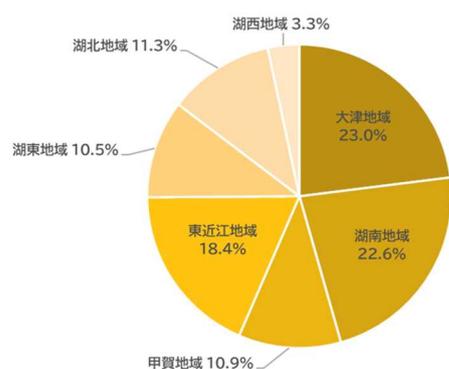
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	25	10.5%
30歳代	38	15.9%
40歳代	35	14.6%
50歳代	48	20.1%
60歳代	45	18.8%
70歳以上	48	20.1%
合計	239	100.0%



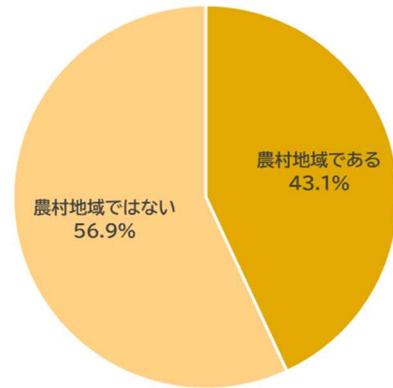
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	55	23.0%
湖南地域	54	22.6%
甲賀地域	26	10.9%
東近江地域	44	18.4%
湖東地域	25	10.5%
湖北地域	27	11.3%
湖西地域	8	3.3%
合計	239	100.0%



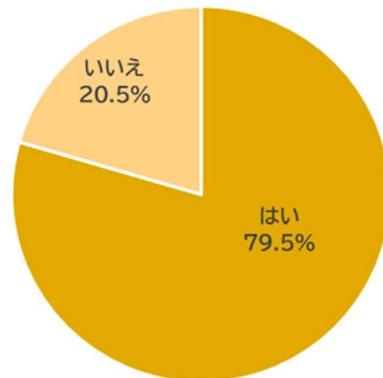
問1 お住まいはご自身から見て農村地域ですか。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
農村地域である	103	43.1%
農村地域ではない	136	56.9%
合計	239	100.0%



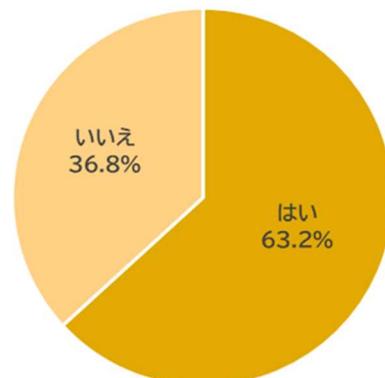
問2 ご自身が食べる食材について、産地や生産者などを見て、選んで購入することはありますか(ご自身で生産しているものを除く)。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	190	79.5%
いいえ	49	20.5%
合計	239	100.0%



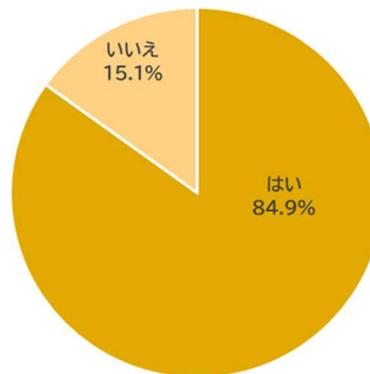
問3 ここ1週間の食事の中で、滋賀県産の食材や滋賀県産の食材が使われている商品を選んで購入しましたか(ご自身で生産しているものを除く)。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	151	63.2%
いいえ	88	36.8%
合計	239	100.0%



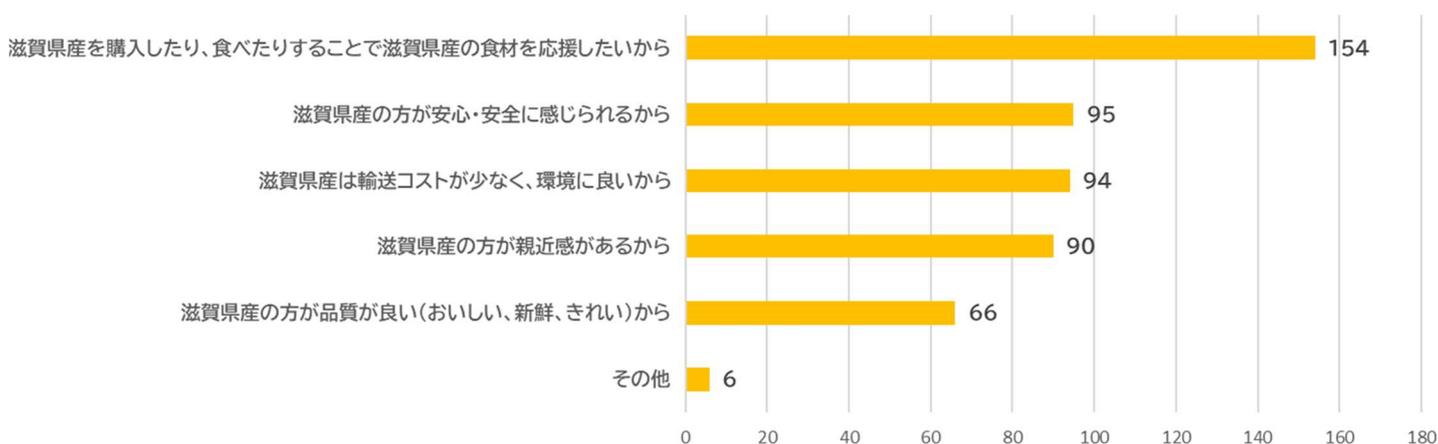
問 4 滋賀県産の食材や、滋賀県産の食材が使われている商品ができる限り買いたい・食べたいと思いますか。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	203	84.9%
いいえ	36	15.1%
合計	239	100.0%



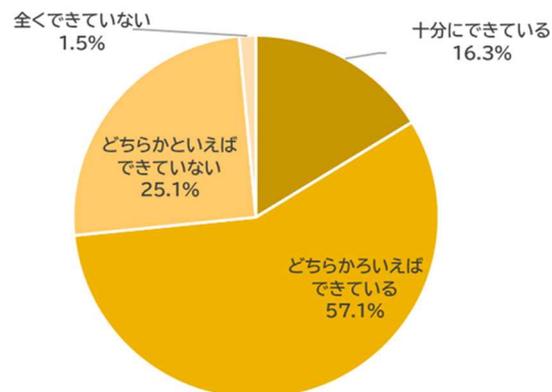
問 5 問4で「はい」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。
(回答チェックはいくつでも n=203)

項目	人数(人)	割合(%)
滋賀県産を購入したり、食べたりすることで滋賀県産の食材を応援したいから	154	75.9%
滋賀県産の方が安心・安全に感じられるから	95	46.8%
滋賀県産は輸送コストが少なく、環境に良いから	94	46.3%
滋賀県産の方が親近感があるから	90	44.3%
滋賀県産の方が品質が良い(おいしい、新鮮、きれい)から	66	32.5%
その他	6	3.0%



問 6 問4で「はい」と回答された方におたずねします。滋賀県産の食材や滋賀県産の食材が使われている商品を、欲しい時に欲しい量を買うまたは食べることができますか。(n=203)

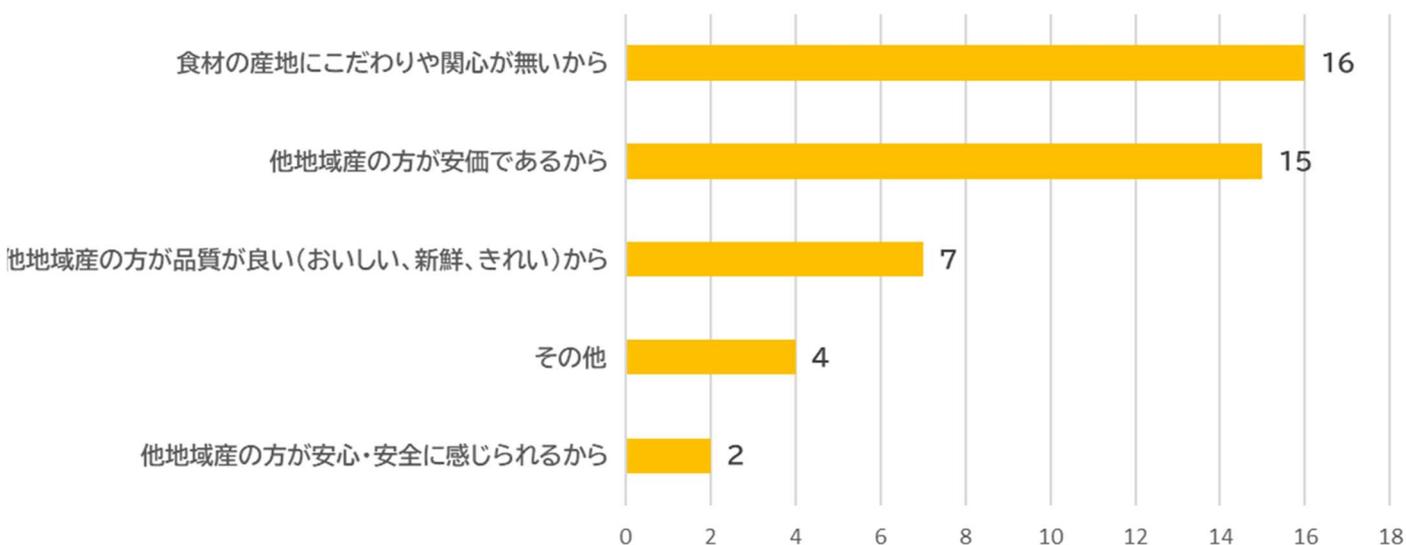
項目	人数(人)	割合(%)
十分にできている	33	16.3%
どちらかといえばできている	116	57.1%
どちらかといえばできていない	51	25.1%
全くできていない	3	1.5%
合計	203	100.0%



問 7 問4で「いいえ」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。

(回答チェックはいくつでも n=36)

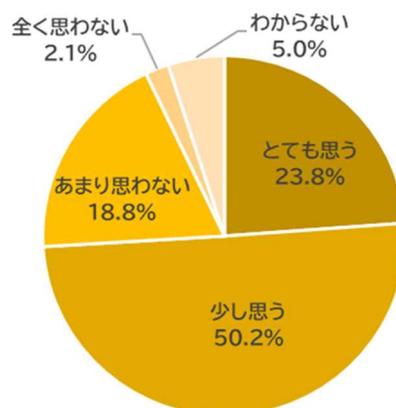
項目	人数(人)	割合(%)
食材の産地にこだわりや関心が無いから	16	44.4%
他地域産の方が安価であるから	15	41.7%
他地域産の方が品質が良い(おいしい、新鮮、きれい)から	7	19.4%
その他	4	11.1%
他地域産の方が安心・安全に感じられるから	2	5.6%



問 8 滋賀県は農山漁村が身近にあり、農作業や様々な体験、農畜水産物の購入等の多様な場面で農業・水産業との関わりを持つことができます。

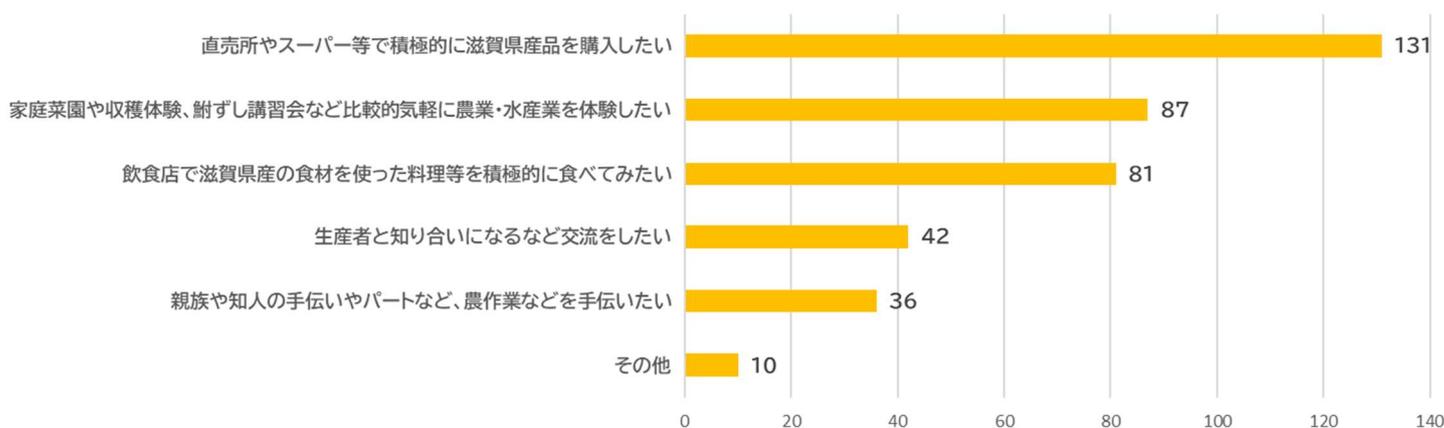
ご自身の生活の中に何らかの方法で滋賀県の農業・水産業と関わりを持ちたいと思いますか。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
とても思う	57	23.8%
少し思う	120	50.2%
あまり思わない	45	18.8%
全く思わない	5	2.1%
わからない	12	5.0%
合計	239	100.0%



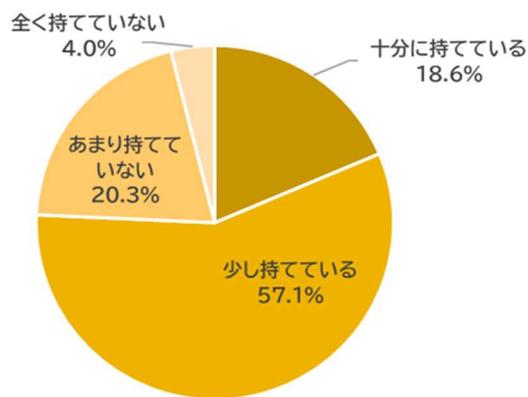
問 9 問8で「とても思う」または「少し思う」と回答された方におたずねします。どのような形で農業・水産業との関わりを持ちたいですか。(回答チェックはいくつでも n=177)

項目	人数(人)	割合(%)
直売所やスーパー等で積極的に滋賀県産品を購入したい	131	74.0%
家庭菜園や収穫体験、鮎ずし講習会など比較的気軽に農業・水産業を体験したい	87	49.2%
飲食店で滋賀県産の食材を使った料理等を積極的に食べてみたい	81	45.8%
生産者と知り合いになるなど交流をしたい	42	23.7%
親族や知人の手伝いやパートなど、農作業などを手伝いたい	36	20.3%
その他	10	5.6%



問 10 問8で「とても思う」または「少し思う」と回答された方におたずねします。現在の生活の中で、実際に関わりを持っていますか。(n=177)

項目	人数(人)	割合(%)
十分に持っている	33	18.6%
少し持っている	101	57.1%
あまり持っていない	36	20.3%
全く持っていない	7	4.0%
合計	177	100.0%



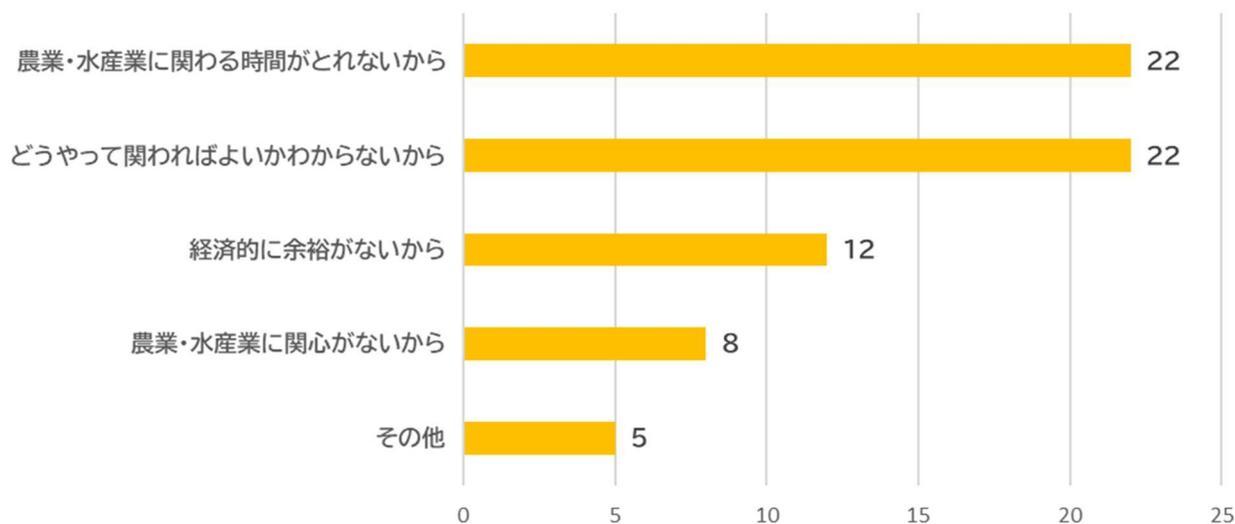
問 11 問 10 で「あまり持っていない」または「全く持っていない」と回答された方におたずねします。その理由について、ご記入ください。(抜粋)

【主な意見】

- スーパーや道の駅で見かけたら、できる限り購入するだけで、生産者さんとの関わりを持つ機会はないため。
- 給食が無くなったから。給食に今まで、滋賀県産の食材が使われていたが、高校生になって給食が無くなったので、関わりが減った。
- 他県からの移住(結婚)、かつ個人事業のため、知り合いがまったくない。イベントなどには積極的に参加していますが、継続的な関わりがあるとは言えない。
- 地元スーパーで滋賀県産のものがあれば買うようにしています。しかし、種類、品数が少なくそれ以外のものを買うことも多いです。道の駅などに行くと手に入るものがもう少し身近で日常の中で手に入ったら嬉しく思います。

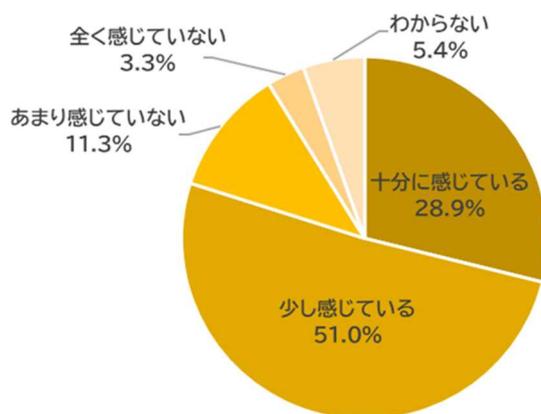
問 12 問8で「あまり思わない」または「全く思わない」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。
(回答チェックはいくつでも n=50)

項目	人数(人)	割合(%)
農業・水産業に関わる時間がとれないから	22	44.0%
どうやって関わればよいかわからないから	22	44.0%
経済的に余裕がないから	12	24.0%
農業・水産業に関心がないから	8	16.0%
その他	5	10.0%



問 13 滋賀の食と農を通じて、農産物を作る楽しさ、食べる楽しさ、田園風景から感じる心の安らぎ等といった「幸せ」を感じていますか。(n=239)

項目	人数(人)	割合(%)
十分に感じている	69	28.9%
少し感じている	122	51.0%
あまり感じていない	27	11.3%
全く感じていない	8	3.3%
わからない	13	5.4%
合計	239	100.0%



【主な意見】

- 他県の都市部に住んでいたことがあったが、滋賀県は果物、野菜、米どれもおいしく品質の良いものを感じる。野菜の価格が高騰したときも産地直売所ではスーパーより安く、品質も良く新鮮なものを購入することができ、定期的に利用するようになった。おいしいものを食べる楽しさを知ること、家庭菜園をしてみたいなど農産物に興味を持つようになった。
- 家庭菜園ができる畑などを、もっと手軽に借りられる場所が近くにあればよいな、と思う。
- 産地が近い商品の方が新鮮感、親近感がある。近くであるから運送費も節約できると思う。価格差は感じない。
- 地元でとれた野菜や米を購入しています。生産者から直接買ったり交流もあります。ただ生産者の高齢化など今後の継続が難しいかなあと感じたりもします。
- 滋賀県に移住して約 30 年余りですが、山紫水明の地といっても過言ではない。水、コメなど農産物が豊富で多種多様です。全国の特産物がありますが、滋賀県産物は全くひけを取りません。大阪にも滋賀県産食材を活用する食事処があるように人気があります。我々の県民の購入先であるスーパーでも並んでおりますが優先的ではありません。流通業者は仕入れ率が合わないのか、他府県さん優先のようです。時折少し離れた道の駅などで県産食材を購入しております。常近場にあればと思いますね。
- 漁業は身近には無いが、農業については、回りに田畑があり、家庭菜園をしている人もいて身近に感じます。農業に関して、最近感じている事は、荒れた田畑が増えてきた事です。昔は、田畑には、雑草が無かった様に思いますが、最近、稲や麦等の中に雑草があったり、ひどい所は雑草ばかりの土地もあり残念です。こういった土地は、他の農業者が耕作するしくみや家庭菜園に開放する等、折角の耕作地を無駄にしない様な事が必要だと思います。又、田から住宅地の転用が進んでいると思います。住宅地も必要と思いますが、守るべき田畑もあると思いますので、そのあたりは、しっかり行政で制度を整備して欲しい。
- 滋賀県は中央に琵琶湖、その周辺には肥沃で広大な農地、そしてそれらを山地が取り巻くという、農林水産業を営むに理想的な地理・地形を保有しています。他の都道府県でこのような理想的な地理的条件を有しているところは皆無です。それが故に淡水湖で漁業が成立し、豊富な水と肥沃な土壌からは近江米をはじめとして豊富な農産物が収穫されています。しかしながら、この滋賀県でも農業や漁業は廃れていっているのが現実です。滋賀県はこの天賦のポテンシャルを十分に活用して、廃れつつある滋賀の農林水産業を再起させて、日本の食の安全保障に貢献していくべきだと思います。私達は県産のみずかがみや県産野菜を日々食しています。少し高いですがフナズシも時々食します。県内の醸造元で仕込まれた日本酒をいただいています。生活のなかで、県産食材や加工食品は必須となっています。県は農林水産業の未来の姿を早期に実現していただくことをお願いいたします。
- 最近、近所の田畑が耕作放棄地や宅地になっている。緑の田畑を守っていくことは大変だと思うが、地域のみんなですべて守っていききたい。でも、田舎では女子ひとりが声を上げにくい。気軽に参加できる方法があればいい。
- 自宅の周りでは畑を終わらせてしまう農家さんも増えています。このまま畑の風景がなくなってしまうのはさみしいと感じます。農業の継承をもっと進めてほしいです。農業はとても大変な仕事だというイメージがあります。地域の人を巻き込んで、地域で農業をする形があればいいと思いました。
- 農漁村での過疎化が進み、時代を担う後継者不足の問題もある中で、何か県の農水産業に貢献したいと地産地消を心がけている。JA の直売所、生活協同組合、スーパーの地産地消コーナーなどで優先して購入するようにしているが、個人の力は微々たるもの。物流、加工、販売も含めて、農水産業に従事する方の生活を保障出来る仕組みを各組合と県とで構築していく事がポイントではと思います。

- 現在の世界情勢や気候変動などによる不安定な状況を考えたとき、将来的にも、安全で安心のできる生活が出来るようにして行くためにも、日本国内の食料自給率を上げることを滋賀県でも積極的に取り組まれることを望んでいます。恵まれた琵琶湖の水と広大な農業作物のできる土地を最大限有効利用する政策を推進することが大事なことと思います。
- ほんの小さな畑ではあるが家庭菜園をしている。自分で作った野菜等はおいしく感じるし、これからも続けていきたい。空いている農地もあちこちにあり、つくる楽しみを味わえる人が増えればと思う。
- 60代になったこともあり、食と健康に以前より関心が高くなりました。滋賀県は地元産の美味しい食べ物がたくさんある恵まれた地域だと思います。安全に手間暇かけて作られた地元野菜や、果物を食べたい気持ちも以前より強くなりました。できるだけ多くの人に提供できるような場所と情報をもっとあれば良いと思います。
- 他県から滋賀県に移住して環境こだわり農産物の存在を知り、環境に優しい農業や地産地消を意識して食材を購入するようになった。スーパーの地場農産物コーナーをよく利用していて、生産者の名前が表示してあると親しみを持ち、気に入った生産者が作った農産物を選んで買うこともある。湖魚の中では特にビワマスが好きだが、売っている店も食べられる店も少ないのが残念である。
- 学校教育などで食育が進められており、こどもの時から身近に食農をすることで、大人になっても潜在意識として続けられていくと思います。
- 自給自足、我が家では近くの農家の人に教えて頂き、家庭菜園をはじめました。滋賀県の味、抜群です。きゅうりが60本取れました。
- 白米をとっても、地元のJAで同じ品種を毎年購入しても味が違ったり感じる。それだけで、前年度の気候を思い返すことになったり、普段の生活で色々意識することもあります。滋賀県産の食材はどうしても地元のJAまでいかないと購入出来ないのもっと購入できる場所が増えるといいなと思いました。数年前よりはすごく手に入れやすくなったと感じます。自身が選んでいるのもありますが。
- 農作物とまではいかないが、もともと田舎で生まれ育ったので、畑で作る野菜類には興味がある。農家の人達や漁師さん、酪農家の人達にはその暮らしぶりには頭が下がる。2030年といえばあと6年後ではあるが、昨今のスタートアップ企業の中には農業等の生産者と消費者である市民を繋ぐ橋渡しのところに視点を向けたところもあったり、違った形の農業をおこなっているところもあったりするのをTV番組でやっていたりする。既存にとらわれることなくそういったところにも目を向けてみるのも一案かも知れない。
- 近江牛、みずかがみなど全国的に誇れる食産物の開発が必要。
- 近くの田んぼを自転車で通り稲穂の成長を見て子供の頃を思い出します。懐かしい香りが大好きです。毎日食べるお米は近江米が一番です。
- 私は農村地域に暮らしていますが、やはり農業の担い手不足を感じます。うちも主人が農業法人に加入し、活動していますが、面積はどんどん増えるのに、平均年齢は上がる一方です。息子も空いている時間にドローンを通じて農業活動をしております。どんどんそういう事業に若い方が参加され、農業に関わる方が増えればと思います。
- 近江産の食材、米、肉、牛乳、野菜、を進んで購入しています。今後も続けていきたい。安心安全、運送費用少なく、地産地消を進めたい。
- 食と農ということは密接な関係で、どちらも切り離せないと思います。滋賀県の農を消費者の立場では、なるべく購入することで、推進できればと考えています。滋賀の農家の方々が安定収入を得られて、また品質改良や安定生産等、次のステップにも進めるように地元のスーパー等でも、もっと滋賀県産の農産物の売り場を増やしてほしいと感じています。家庭菜園もしており、農作物を育てることの難しさ、大変さについても子供と一緒に意識していきたいと思います。